



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する

入学おめでとう！

7名の新入生を迎える

令和6年度がスタート！

令和6年度の入学式は、4月5日（金）に行われました。新入生の皆さん、保護者の皆さん、ご入学おめでとうございます。

当日、「入学生呼名」では、学年の先生が名前を呼ぶと、新入生は、元気よく「はい」と応えてくれました。また、新入生を代表して、杉本柑奈さんは、中学校入学への期待を込めて、「誓いのことば」を宣言しました。

そして、8日（月）には、1学期始業式を迎えて、本格的に新年度がスタートしました。



保護者の皆さんへ…

新たな決意で ともに歩みましょう

さて、中学時代は、人生でもっともむずかしい時期だといいます。思春期とか反抗期ともいい、心身ともに大きな変化が、子どもたちの中に起きつづる時期です。

まだまだ子どもだと思っていた我が子が、急に身体も大きく成長し、あまり口を利かなくなったり、よそよそしくなったりします。それまで、買い物や外出に付いてきたのに、親と一緒に行動せず、友だちと過ごす時間が増え、ある意味では、親として寂しさを感じるかもしれません。場合によっては、我が子ながら、手に負えない状況がうまれるかもしれません。

では、この中学時代の我が子の変化に、どのように対応したらよいのでしょうか。私たち教職員は、この時代の子どもたちに、日々接しています。その指導の基本の一つとして“子どもたちの自立をいかに促すか”があります。

そこでは、大人としての考え方（常識）を伝え、さらに自分（教職員）の考え方を伝え、最後は子ども自身の自己決定に任せる過程を大切にしています。知・徳・体をバランスよく育て、責任感を持たせ、自立の道を歩むよう、粘り強く指導や支援を繰り返しています。

そこで、提案があります。家庭でも、機会があるごとに、親としての意見をはっきり述べて、子ども自身に決めさせて、責任を持たせる態度で臨んだらいいかがでしようか。ただ、放任主義ではいけません。少し離れたところで、“見守る態度”を保ち、子ども自身の選択可能な範囲を広げていくことです。いずれにせよ、子どもの成長は、親から離れていくということです。寂しいようですが、これが発達の過程なのです。

今年1年間、家庭と学校とともに手を取り合って、子どもたちのためにお互い頑張りましょう。

あいさつで開こう 「心の扉」

私たちの生活はあいさつで始まりあいさつで終わります。また、人の出会いもあいさつから始まります。気持ちのいいあいさつ、すがすがしいあいさつを交わしましょう。“爽やかなあいさつ”は、年間を通して、生徒も教職員も実践していきます。

今年度も道志中学校では、学年・学級の「安定と活性化」を基盤とした教育活動を展開します。

学校だより『やまゆり』は、生徒の様子を紹介する場、教職員の願いや思いを伝える場として、発行します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。